

一

【解答】

問一 (1) 操業 (2) 草案 (3) 膨 (4) 帰途 (5) 致命

問二 (6) おおむ (7) しょうあく (8) はくび (9) いみょう (「いめい」も許容) (10) い

【講評】

出題された漢字は、読み・書きともに高等学校の教科書で使用されているものです。全体的に書きよりも読みの方がよくできていました。点画を丁寧に書かなかつたり字を小さく書いたりして、形がはっきりしない場合は誤りと判定します。解答の際には、点画をはっきり大きく丁寧に書くよう心掛けてください。

二

【解答】

問一 ア ⑥ イ ③ ウ ④ 問二 ⑤ 問三 ④ 問四 ③ 問五 ⑤

問六 X ② Y ① Z ⑤ 問七 ① 問八 遠い世界から彼に呼びかける声 問九 (1) ⑤ (2) ③

【講評】

問一・問二は、空欄の前後をよく読んで文脈に合う語や慣用句を選びます。問四は、この空欄を境に主人公明石のそれまでの生活が変化することを捉え、逆接の接続詞を選びます。問三は、傍線部Aの前で明石が自分をどう批判しているか、に注目。問五のヒントは傍線部B直後の四つの段落と、本文最後の三つの段落。「風が見える」眼と見えない眼の違いが書かれています。問七は、本文中に述べられていること、いないことを見極めて答えます。問八は、幼少期の思い出に関する記述の中から、貝殻から受け取った「大きな意味を持つ」何ものか、を端的に言い表した字句を探します。問六は修辞法、問九は文学史の知識を問うています。全体的によくできていましたが、問九の正答率が高くありませんでした。

三

【解答】

問一 A ② B ③ C ① 問二 a ⑤ b ⑧ c ④ d ⑨ e ③

問三 (1) ① (2) ② (3) ⑤ (4) ① 問四 W 兄 X 京 問五 ⑤ 問六 ④

問七 ④ 問八 ④

【講評】

問一は基本単語、問二は基本的な文法を確認する問題です。bの「れたまふ」を尊敬とする誤答が目立ちました。問三は主語を答えさせて、敬語の使用や文脈から正確に読解出来ているかを確認しました。(1)・(3)は高い正答率でした。問四は指示語を問い、登場人物の人間関係と位置関係が理解できているかを確認する問題です。問五・六は内容読解の問題です。問五は、直前の「賢き御心」「かしづききこえむ」という敬語表現に着目します。問六は、歌のやりとりであることを踏まえて解釈します。光源氏の歌を正しく解釈できていない解答が多くありました。問七は文章全体の理解度を確認し、さらに「あやしき道」「夢の心地」という表現の理解を問いました。問八は基本的な文学史の問題です。

四

【解答】

問一 A ④ B ⑥ C ③ D ② 問二 a ① b ⑤ c ⑤ 問三 X ⑥ Y ④

問四 [1] ③ [2] 単身者およびそのスタンスを指す呼称 問五 個人は、自～になった。

問六 ② 問七 ①・④

【講評】

問一・問二は前後の文脈から判断します。段落と段落のつながりも考えましょう。問二のc「草分け」は物事の初め、またはそれをはじめた人を意味する単語です。問三は、XとYが対になること、Yの直前の「個人の嗜好に対応したフレキシブルな生産」という表現や本文全体の主旨から絞り込めます。問四は、「おひとりさま」以外の呼称について述べた部分。[2]の抜き出し問題は全体的によくできていましたが、「単身者」を「単独者」とする誤記が目立ちました。問五の「個人化」については、波線部の直後の段落に二点にわけて述べられ、さらにその次の段落で一文にまとめられています。正答率は高かったのですが、文の途中から抜き出している解答もありました。設問の文章によく注意してください。問六は「おひとりさま」が「後期近代」と「前期近代」のどちらの個人化にあたるのかを考えれば、難しくありません。問七は全体の主旨を問う問題です。②③⑤とも本文から大きくはずれています。全体的によくできていました。